

令和4年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立大森第七中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・総合的にどの学年も着実に力をつけ、成果を得られているといえる。
- ・漢字や語彙など基礎・基本となる事柄の指導を行い、「読むこと」や「書くこと」に活用できている。
- ・授業でペアワークやグループワークなどの言語活動を積極的に取り入れたことによって、自己の意見を述べ、他者の意見を聞き取る経験を多く積んでいる。このことで、自己の考えをより多角的に深めることができている。

(2) 課題

- ・どの学年でも「知識・技能」は高い傾向にある一方、「表現力」に関しては昨年度から引き続き、伸ばす余地があると考えられる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）△目標値を上回る ≍目標値と同等 ▼目標値を下回る

	令和4年度結果		令和3年度結果		令和2年度結果	
第1学年	全体	△	/		/	
	基礎	△				
	活用	△				
第2学年	全体	△	全体	△	/	
	基礎	△	基礎	△		
	活用（思考判断）	△	活用（思考判断）	△		
	活用（表現力）	△	活用（表現力）	△		
第3学年	全体	△	全体	△	全体	△
	基礎	△	基礎	△	基礎	△
	活用（思考判断）	≍	活用（思考判断）	△	活用（思考判断）	△
	活用（表現力）	≍	活用（表現力）	△	活用（表現力）	△

(2) 分析（観点別）

第1学年	3観点のすべてにおいて目標値を上回る。
第2学年	3観点のすべてにおいて目標値を上回る。
第3学年	「知識・技能」は目標値を上回った。「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」は目標値と同程度だった。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
漢字の読み書きについては、定期的に漢字テストを行い確実な定着を図る。また、文法事項や表現技法の基本知識を確実に理解させ、文章等の中で使えるように指導していく。語彙については、辞書的な意味と文脈にそった意味との関係に注意させ、文脈にそった適切な語句の読み取りや使用ができるように指導し、語感を磨かせる。	「話すこと・聞くこと」では目的や場面に応じ、自分の考えをわかりやすく聞き手に伝えられるよう指導していく。「書くこと」では、根拠を明確にし、構成に注意しながら、自分の考えが読み手に伝わる文章になるよう指導していく。「読むこと」では文の要旨を把握できるよう文の中心的部分に注目するよう指導していく。	自分の考えを積極的に表現し、その上で言語活動を通して、相手の意見を尊重しながら、互いに思いや考えを伝え合おうとする態度を養っていく。各単元では、学習の振り返りを行い、自らの学習状況を把握させていく。また、その上で、学習した内容を別の単元や学習で活用、応用する機会を増やし、自ら学習する姿勢を育てていく。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期的に漢字テストを行った結果から読み書きについての基礎基本は概ね身につけている。また、単語の活用など文の構成について理解し適切に使えるよう指導していく。類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話しや文章の中で使うことを通して、語感を磨かせる。	「話すこと・聞くこと」では1学期に思考の視覚化を意識し自分の考えを相手に正確に伝えることに取り組んだ。今後は根拠の適切さや論理展開を意識し、互いの立場を尊重した話し合い活動を重視していく。「書くこと」根拠の適切さを考え、自分の文章が相手に伝わるよう指導していく。「読むこと」では文章の構成や論理の展開、表現の仕方について意識して読むように指導する。	自分の思いや考えを積極的に表現し、授業でお互いに関わっていく中で思いや考えを深めていく態度を養っていく。ICTを活用することで、お互いの思いや考えを共有する機会を増やしていきたい。単元の振り返りを行い、学んだことを次の学習に活かし取り組む態度の育成に努める。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「語彙」では和語、漢語、外来語の特徴を理解し、俳句の作成の際にはそれぞれを使い分けることを通して語感を磨き、語彙を豊かにすることができた。今後は「言葉遣い」において、敬語など相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使えるよう指導する。	「書くこと」では俳句を作成する授業において他者の意見を取り入れて自己の作品を推敲するとともに、他者の作品を鑑賞して批評することができた。今後は「読むこと」において様々な文章を読みながら、人間や社会、自然について自分の意見をもつ指導を行う。また「話すこと・聞くこと」において自分の立場を明確にし、論理展開など話の構成を工夫するよう指導する。	全体的に前向きに学習し、着実に力を伸ばしている。特にICTを活用することで積極的に自分の意見を発信し、全体で共有することで深い学びにつながっている。今後は言語活動等を通じて言葉がもつ価値を認識させ、日本の言語文化に対する思いや考えを伝え合おうとする態度の育成に努める。